平成２０年第５回教育委員会定例会会議録

１　開会宣言　平成２０年４月２５日（金）　午後１時３４分

２　場　　所　三条市役所栄庁舎　２０１会議室

３　出 席 者　梨本委員長、長沼委員長職務代理委員、坂爪委員、渡辺委員、松永教育長

４　説明のための出席者

古川教育部長、池浦教育総務課長、久住子育て支援課長、坂井学校教育課主幹、小林学校教育課主幹、金子生涯学習課長、企画調整担当藤井副参事、駒形教育総務課長補佐、阿部教育総務課庶務係長

５　傍 聴 人　１人

６　議　　題

（１）会議録の承認

平成２０年第４回教育委員会定例会会議録について

（２）報　　告

報第　１号　専決処分報告について（三条市社会教育委員の辞職及び委嘱について）

報第　２号　専決処分報告について（三条市図書館協議会委員の辞職及び委嘱について）

報第　３号　専決処分報告について（三条市地区公民館分館主事の辞職及び任命について）

報第　４号　平成１９年度第３回三条市社会教育委員会議会議録について

報第　５号　平成１９年度第３回三条市図書館協議会会議録について

（３）議　　事

議第　１号　三条市公民館条例施行規則等の一部改正について

（４）その他

・平成２０年度主要事業概要について

・次回教育委員会定例会の日程について

７　審議の経過及び結果

（１）会議録の承認

梨本委員長から平成２０年第４回教育委員会定例会会議録について諮り、承認と決定

（２）報第　１号　専決処分報告について（三条市社会教育委員の辞職及び委嘱について）

報第　２号　専決処分報告について（三条市図書館協議会委員の辞職及び委嘱について）

報第　３号　専決処分報告について（三条市地区公民館分館主事の辞職及び任命について）

以上３件について池浦教育総務課長が一括説明

―― 全員承認と決定 ――

（３）報第　４号　平成１９年度第３回三条市社会教育委員会議会議録について

金子生涯学習課長が説明

（梨本委員長）

以前にいただいた資料に「市長と教育委員会との事務の移管等に伴う協議について」という、我々の関係したものだけを大変分かりやすくまとめたものがあった。生涯学習に関しては市長部局と教育委員会との関係はこうだ、あるいは文化財はこうだとか、こと細かにあり私どもは理解できたが、市民の皆さんに、そういった点で戸惑いや混乱というのはないだろうか。

（池浦学校教育課長）

２月頃から教育委員会の中でも話をさせていただいているとおり、４月１日から大幅な組織機構の変更があり、その中でも特に目玉となるものが三条庁舎、栄・下田庁舎の総合窓口化、それから福祉部門の充実と合わせてこの教育委員会がその目玉の中の一つとして子育て、要はマタニティから義務教育が終了するまでということで一括して組織機構の変更がなされ、私どもとしては、丁寧に市民の方にもお分かりいただけるような広報に努めてきたつもりではある。ただ、色々な機関を通じてできる限りの広報をしているが、まだ市民の方の間には現実戸惑いがあり、電話の照会、特に育児の相談等におけるものなど、課題としてはまだまだ残されているなというのが一般的な今の印象だ。

今後はもちろん市民の方にまた丁寧に説明をしていく中で、教育委員会としてももっと分かりやすいＰＲの仕方等を十分検討していきたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

（梨本委員長）

ありがとうございます。委員の方はいいだろうか。後は体育関係なども色々あるので、よろしくお願いしたい。

―― 全員承認と決定 ――

（４）報第　５号　平成１９年度第３回三条市図書館協議会会議録について

金子生涯学習課長が説明

（長沼委員）

蔵書を増やしたいということだが、下田では本の寄附を募っているのか。

今の若いお母さんたちは、本を読んでしまった後に、ブックオフなどで１０円くらいで売っているようだ。私たちの世代は本を読んでしまった後に売るという感覚があまりない。結構、みんなは本を読んでくれる人があれば寄附したいと思っている。１０年くらい前に、ＪＲの待合室がどんな本でも寄附してくださいとのことで、寄附をしたことがあるが、今はそういうものを受け付けるのか。

（金子生涯学習課長）

市立図書館においては、図書の寄贈は受け入れているところだが、傷んだ本や供覧できないような本については持ち帰りということで、リサイクル本として無料で提供できるコーナーを設けている。基本的には受け入れている。

（長沼委員）

例えば下田もか。

（金子生涯学習課長）

そうだ。三条市立図書館はある程度本館で整理して各分館に配布をするという形を取っているので、本館の方でそういうことをしている。

（渡辺委員）

私も、ここ２、３ヶ月の間に何回も利用させてもらっている。新しい図書館ということで、非常に入りやすく暖房等もよく効いているし、環境的にも素晴らしいと思っている。ただ、やはり蔵書には古い本がたくさんあり新刊が少ないのだろうか、予算の関係もあるので仕方ないのだろうが、より充実したものにしてほしいと思っている。

ここにも書いてあるが、子どもが読書をすること、本が好きになるということは、いかにそういう習慣付けをしてやるかが非常に大事だ。特に小学校は非常に重要な段階だと思っている。そのようなところもお考えだと思うが、十分また考慮してほしい。

一つ教えてほしいのは、「調べる学習賞コンクール」に、市内の小学校はどの程度参加しているのか。

（金子生涯学習課長）

現在の下田分館の本について、やや古いものが多いのではないかという話だが、開館前は約７,０００冊の蔵書であったが、今は２万１,０００冊ということで、１万４,０００冊については改築の時期に新しく購入させてもらった。予算の範囲内で新刊を揃えたとご理解いただきたいと思う。また今後、指定管理者でも、新しい本を買う中で各地域隔てなく新刊等を配分する予定だと聞いている。

「調べる学習賞コンクール」だが、現在この学習賞コンクールに参加している小学校はない。これらについて、今日も大向図書館長が三条小学校の校長先生へそれらの働きかけに行かれたということだ。先般の校長会の席上においても、新しく指定管理者として図書館を運営することになったが、従来どおりのサービスを行うと同時に、この「調べる学習賞コンクール」等を進めたいと話されたので、今後これらについて学校側との協力の中で行っていくものと思っている。

（渡辺委員）

図書館と直接関係はないが、読書ということで、各小中学校の１日の学校生活の中で、時間的にはいろいろあるだろうが、読書の時間を設けている学校があると思う。その辺の実態などはいかがになっているだろうか。

（金子生涯学習課長）

子ども読書教育活動の推進の中で、先般、調査をさせてもらったところだ。朝読書は全小中学校が行っているという回答を受けている。時間等については資料を持って来なかったが、全小中学校がやっているとのことでご理解いただきたいと思う。

（松永教育長）

下田公民館の１階にある図書館分館の蔵書の件で、これは下田分館の特色を出したいということで、民話や郷土に関する資料にウエイトを置いた経緯があった。

（金子生涯学習課長）

下田図書館分館と栄図書館分館があるが、下田については、教育長が申し上げたように民話や昔話が豊富にある地域ということで、中央館のミニ図書館版ではなく、特色のある下田の地域に根ざした民話、昔話等の本を揃えさせてもらった。

もう一つ、語りといって昔話語りや民話の語りの活動についても、指定管理者の方で今後検討して、ボランティアを育てていきたいということで聞いている。また、地元でも昔話語りをする人が多いとのことなので、それらの人材を活かした活動をしていきたいと考えている。

（梨本委員長）

私は、語り部の部屋は見ており、いい部屋で雰囲気もよいなと思っていたのだが、そういう方は今まではいなかったのか。

（金子生涯学習課長）

今はいる。サークルとして今行っているので、それらを中心にしながら人材を育てていきたい、増やしていきたいという活動をしている。

（松永教育長）

渡辺委員の質問の調べ学習、読書習慣についてであるが、「調べる学習賞コンクール」は、先ほど生涯学習課長が答弁したように、新しく図書館長になった太向さんが校長会に来て、こういう事業を行うので学校も協力してほしいと。これから動き出すと思うが、例えば夏休みの自由研究のひとつのように、そういう形の中で取り上げていき、コンクールに参加する子どもが多くなればいいなと期待しているところだ。

読書習慣については、先ほどの答弁のとおり小中学校、特に小学校は朝の読書の時間を設けており、教職員が出勤をした後に子どもたちが登校する、それを確認した後で教職員が職員室で打ち合わせをする。その間に子ども達に自習の時間があるわけだが、そのうちの何曜日と何曜日は読書をしましょう、何曜日は国語のプリントをしましょうと、そういう時間で読書の時間を設けているだろうと思う。全部がそのスタイルかどうかは別として、そのスタイルが多いのではないかと思う。

もう一つは、この前生涯学習課が作った読書のパンフレットというものがある。これは家庭に行ったのだろうか。

（金子生涯学習課長）

三条新聞にも少し載せてもらったが、平成１８年度に子ども読書活動推進計画というものを作ったので、そのＰＲパンフレットを各小中学校、保育所に配らせてもらい、そこから保護者へ、家庭での読書の推進という観点で配布した。

（松永教育長）

そのような形で読書習慣に学校も行政も取り組んでいる。少し心配なのは、下田や栄の話も出たが、中央図書館からだいぶ遠く図書館も行けない子どもに巡回図書という自

動車文庫を行っている。それが指定管理者になって、運転手や職員の配置が手薄になっていないかという心配もあるが、その辺は従前どおりにいっているのだろうか。

（金子生涯学習課長）

指定管理者への指定要件として、従前のサービスをそのまま引き継ぎ、従前以上のサービスを行うことが条件となっている。現在回っているかどうかは確認していないが、上がってきている計画としては従前の場所、時間等を巡回することになっているので、間違いなかろうかと思う。何かあるだろうか、まだ来ないというような。

（松永教育長）

これから学校生活が段々活発化していくわけなので、その辺をチェックしておいてほしい。

（坂爪委員）

巡回は、毎月の決まった曜日に来ているので変わりないだろうと思う。ただ内容的なものを見ると、親が読み聞かせする本と、保育園の子ども達が見る本とのレベルがかなり高いものばかりという雰囲気がある。小学校に行くときと保育所に行くときと中学校に行くときの巡回図書は多分同じで、さっと行くだろうと思う。そこは少し工夫していただければいいかなという感じはする。

（金子生涯学習課長）

今ほどのご指摘だが、巡回図書の回る先によって本の内容は変えているのではないかと思う。保育所と小学校の変更があるのかどうかはつかんでいないが、今まで大人向けへの集会場やステーション毎に巡回図書が回っていたが、今は小学校や保育所等にシフトしている。例えば、昼休みや放課後の決まった時間にしか行けないというので、同時に同じ時間帯で必要なのでどうしても数が限られるが、希望される学校には極力行くようにしているところだ。また、学校図書館とはまた違った楽しみがあり、結構色々な子ども達が借りてくれる。要望を聴きながら巡回させてもらいたいと思っている。

（梨本委員長）

私から一言だが、指定管理者に移行する段階で、一部の特に図書館に対して関心の深い方だと思うが、それは困ったものだという反対の動きなどもあった。

ハードの面は、土曜日からはもう１時間延長しますとか、日曜日はもっとサービスをよくしますとか、それから自動車文庫の話があったが、本の冊数や蔵書の面、そういったハードの面は決して悪くはならないだろうと。そして確かによくなっていると思う。

心配するのはソフトの部分だ。例えば、今、語り部などの輪をどんどん広げていきますとの話があった。ぜひそうしてほしいが、行政でできない部分は地域の人たちが支えるという要素が、特に図書館、あるいは公民館において非常に重要なところがある。その辺は大丈夫かなという心配がある。しかも、それが大変大事な部分だということをあえて言いたい。よろしくお願いしたい。

（金子生涯学習課長）

そういったいわゆるソフト、活動の質や内容については、生涯学習課で図書館の指定管理者と連絡しあう要員を配置させてもらっている。今まで図書館司書だった職員が生

涯学習課文化振興係の中に位置付けられ、今は毎週定期的に連絡会議を開いており、こういった問題点があるとか、こういったことの苦情があったということは常に協議の場に上がってくるようになっている。今後もそういった中で、活動内容等を支援していきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

（渡辺委員）

２、３伺いたい。１点は下田の新館の２階に多目的ホールがある。曜日によってはその利用者が多い場合も当然ある。駐車場は１０台ぐらいも入らないだろうか。

（金子生涯学習課長）

専用の駐車場は１４台だ。

（渡辺委員）

保健センターがあるが、間日はほとんど満杯になっているのでなかなかないと思う。その辺もお聞きしたい。

それから、場所がなかなか分かりづらくて難しいところだが、いい方法はないのか。

３点目は、学校の図書室の充実で、先ほど巡回図書に行くと子ども達は喜ぶとのことなので、学校は本の充実がまだまだ不十分な点がたくさんあるので、その辺は巡回等で補っていただければと思う。

（金子生涯学習課長）

駐車場については、保健センターが前にあり、その駐車場との相互利用を基本的には考えている。土曜日、日曜日は、下田庁舎利用者や職員がいないので広く使われるのかなと考えている。そういった意味では、市立図書館の本館も駐車場が少ない。三条市は公民館もそうだが駐車場が常になく、大崎辺りの方は中央図書館に行くより、駐車がしやすいので下田の図書館へ行くという声をお聞きする。そういうものが率直に言われているようだ。というのは、リクエストがどこの図書館でもできるので、下田地域以外から下田の図書館へ行かれるようだ。

案内標識の件だが、三条側から行くと国道に下田庁舎が右側にあるという標識があるが、それらを利用して下田公民館、下田図書館の標識を張り替えるような形で今準備を進めさせてもらっているので、よろしくお願いしたい。

（池浦学校教育課長）

３点目の学校図書の充実について答えさせていただく。

学校図書館が、今の三条市の現状としては非常に蔵書数も少ないというご指摘の中で、これについては国の交付税の対象となっており、その基準を満たすほどの予算付けが三条市ではできないくらいの状況だ。国の基準に対して三条市がそれを満たそうとすると単費分が出てくるので、その単費分の予算が配当されずかなり苦慮はしている。ただ、もちろん学校運営の中で図書館は大切な役割がある。今考えているのは、学校間同士でネットワーク化をきちっと図り、例えば自分の学校にないが隣の学校にはあるという連携、あるいは図書館と分館等々と連携を取る中で、子ども達が要望しているものができるだけタイムリーにという形を取りたいと思っている。

（坂井学校教育課主幹）

学校教育課としてスクールアシスタント制度というものがある。各学校に２、３名配置をさせてもらっている。その方達の活動については校長先生に一任している部分があるが、その活動の一つとして図書館施設の整備充実という項目がある。例えば本が少し切れていれば補修をしたり、あるいはこういった本がありますよという紹介等も学校によっては行っている。子ども達に少しでも本を読んでもらいたいと活動をしている。よろしくお願いしたい。

（梨本委員長）

その他、皆さんよろしいだろうか。大変活発な、熱心な、有意義な意見が図書館に集中してよかったなと思う。

―― 全員承認と決定 ――

（５）議第　１号　三条市公民館条例施行規則等の一部改正について

金子生涯学習課長が説明

―― 全員承認と決定 ――

（６）その他

ア　平成２０年度主要事業計画について

池浦教育総務課長、坂井学校教育課主幹、久住子育て支援課長、金子生涯学習課長が所管事項について順次説明

（梨本委員長）

長沼委員は何かないか。

（長沼委員）

あまりにたくさんで。５ページの団塊の世代対象という方だが、今、私の世代のどなたでも、退職なさったご主人を迎えている奥さんは本当に苦しんでいる。介護や色々なことが同時進行しているが、社会で活躍していたお父さんは子どもより悪いと。通学合宿という話が出たときに、お父さんの通学合宿をしてもらいたいと。ご飯はパッと出てくるものではないとか、おばあちゃんはいきなり手づかみで食べてしまうものだということが理解できずに、いつまでもおばあちゃんを怒っているとか。家族でそういうことが円滑にいかないと本当に大変だ。立派なお父さんほど家庭の中では教育が必要で、やってみたら、ご飯は有り難いと思ったと。下着も畳んで洗濯機から出てくるものではなく、山のようにあるものだから自分で出してくることもできず、「おーい」と言われると、その間におばあちゃんが大変なことになるということが、私どもの世代では本当に大変な大きな社会問題だ。医療の現場の方にお聞きしたところ、そういうお父さんを迎えたお母さんの鬱病対策がもう始まっているそうだ。お母さんにしてみれば今まで我慢していた、お父さんにしてみれば今まで食べさせてやった、私も働いていたというような思いもある。中には働かない息子さんたちも抱えているわけだ。

そういうときに、生活できるお父さんであると、じゃあご飯をつくるから、となればすごく気持ちが楽になる。なので、古代史も郷土史も大事だが、ご飯や洗濯ができる団塊の世代も大事だ。そういう方達は近所とあまり付き合わないので学習する場がない。そういうものを是非お願いしたい。この間、私より少し上のお父さん達を抱えているお

母さん達が大勢いて、ものすごく大きい声で話しておられて、長岡だったが、「死んでくれないかな」と。それは本当に一生懸命に働いてこられて可愛そうで。社会参加はしてこられたが、人間の生活を社会教育として何かないだろうか。そういうお父さんだけが集まり、毎日家で怒られているのも嫌だと思う。そういう何かはないだろうか。

（金子生涯学習課長）

団塊の世代を対象とした学習の機会は、まだまだ学習の充実度は緒についたばかりだ。先ほど申し上げたように、社会教育委員会議の中でもこれについてのテーマを設けもう少し充実させていきたいと思っている。今は市民総合大学や、井栗公民館や大島公民館で男のための料理教室、料理講座をやっている。子どもではないが、生活体験という講座を提供する中で徐々に充実させていきたいと思っている。色々なサジェスチョン等があればお聴きして充実させていきたいと思っている。よろしくお願いしたい。

（梨本委員長）

久住課長は何か。

（久住子育て支援課長）

子育て支援課としては、団塊の世代より前の子育て中のお父さんにも育児に参加してもらい、若いときからそういう教育をしていきましょうと。子育ては母親だけではなく、両親で行うものだということを「初めてのパパママ教室」や、その後の父親向けの育児講座を通して、同時に家庭教育という観点からも実施している。引き続き充実させてやっていきたいと思っているのでご指導お願いしたい。

（梨本委員長）

古川部長からも何かあるか。

（古川教育部長）

今、長沼委員の話を聞いていて、非常に身につまされる思いがした。大変重要な問題だと思う。私自身も今週末は家で料理をして、妻を助けたいと思った。

（梨本委員長）

大変素晴らしい答弁だ。

（坂爪委員）

少しいいだろうか。最近のニュースなどを読むと花を切ったりというものがある。各幼小中辺りを見ると学校での取組で畑を作ったり花壇を作ったりというのは多分やっており、それに補助が出ているのか出ていないのか分からないが、動植物を育てる心をもっともっと育めば親も子どももそうだろうが、子育ても同じで大事だなと思う。ぜひ今後検討して予算化して、補助をしていただくことが大事ではないかという気がする。

（梨本委員長）

素晴らしいご意見だ。あとは何かあるか。

（長沼委員）

これはどなたにというものではないが、私のところに来ていた子たちが結婚していくが、子育てってこんなに嫌なものなのか、と言う。というのは、今マスコミの取り上げ方や色々な支援も、子育ても大変だから何かしてあげましょう、子育ては大変だから助

けましょうという。そんなに大変だったのと聞くが、大変は大変だがあんなに面白いものはなかったという。３歳まで子どもを育てさせたら一生親孝行しなくていいんだそうで、それくらい３年間というのは親にとっての喜びなんだそうだ。私が言ったのではなく、どこかで読んだのだが。

だからどうしてもっとこんなにいいものを、本当のことを言うとお父さんたちはあまり楽しい記憶はない。私たちはすごく面白いことや、「今に見ていろ、お前のお嫁さんに言ってやるぞ」ということをたくさん溜めてある。だから行政がたくさんされていることに、楽しい子育てをとか、当然子育ては楽しく、喜びだ。だから大変というものをあまり出さなくてもいいのではないかと。若い方を見ていると手伝ってもらって当たり前というような、そうではないだろう、楽しいこともたくさんあるのにと思う。もっと楽しいこともののせてほしいなと。パンフレットや行政のものを見ると、最初に苦あり、大変でしょうと。それもあるが、喜びもたくさんある。ただの感想で、お答えを求めたものではないが。

（久住子育て支援課長）

ありがとうございます。伝わるような広報、または在り方を考えていきたいと思う。

（長沼委員）

そうですね、若い方が喜んで産んでくださるようによろしくお願いします。

（梨本委員長）

ご覧のように、教育委員会は非常に楽しい委員会だ。色々な発想の転換が出るなど。これからも、私も運営したいと思う。

―― 全員承認と決定 ――

次回教育委員会定例会の開催日時について、池浦教育総務課長から提案があり、委員長が諮り次のとおり決定する

日　時　　平成２０年５月２７日（火）　午前１０時００分

会　場　　三条市役所栄庁舎　２０１会議室

８　閉会宣言　　平成２０年４月２５日　午後２時５９分

三条市教育委員会会議規則第３８条及び第３９条の規定により、会議の顛末を記載してここに署名する。

平成２０年５月２７日

三条市教育委員会

委員長　　梨本　清一